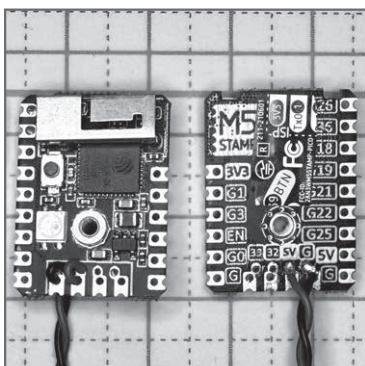


第6章 無線同期の光ビーコン！

キャンプや野外イベント用 夜の位置目印ランプの製作

鮫島 正裕 Masahiro Sameshima



キャンプや野外音楽フェスで、夜暗くなってからテントや自分の椅子に戻るときの目印としてLEDが使われています。

筆者も2000年頃に写真1のように、写真2のイルミネーションLEDを購入し、目印にしていました。これはφ5mmのLEDでRGBの3色LEDが入っていて、約30秒の周期でゆっくりと発光色が変化するものです。

遠くから歩いて戻るとき、同じ用途の目印LEDがいくつか見えるなかで、ゆっくりと色が変わるタイプは、ほかの目印LEDに比べて輝度が低く暗くても、色変化によって場所がわかりやすい利点がありました。また、音楽フェスでステージを観ている人の視野の邪魔にならないように、LED光の方向もコントロールできるレンズ付きのLEDはちょ

うどよかったです。

このLEDは2006年ごろに一度販売中止になってしまっていて、このときに筆者は代替策として外部制御式のLEDマーカを準備しはじめました。しかし、2008年頃にOSTB5131A(OptoSupply)というほぼ同じ色変化LEDが販売されました。屋外で使っていると紛失したり端子部が錆びて壊れたりするのですが、今も写真2のような形で補助的な用途で利用しています。

ホタルのように複数のLEDを 同期点灯させて目印にする

5年ほど前からLEDの目印がわかりにくくなって、設営場所に帰ってくるときに場所を間違えたということが起こるようになりました。同じような目印LEDが増えただけでなく、モバイル・バッテリーなどの進歩により明るい光源が増えて夜間でも明るくなったのが原因と考えられます。視認性をよくするためにLEDを



写真1 キャンプや野外音楽フェスで自分のテントがすぐわかるような目印LEDを製作する
椅子やテントの近くでLEDを点灯させておくことで夜の目印になる

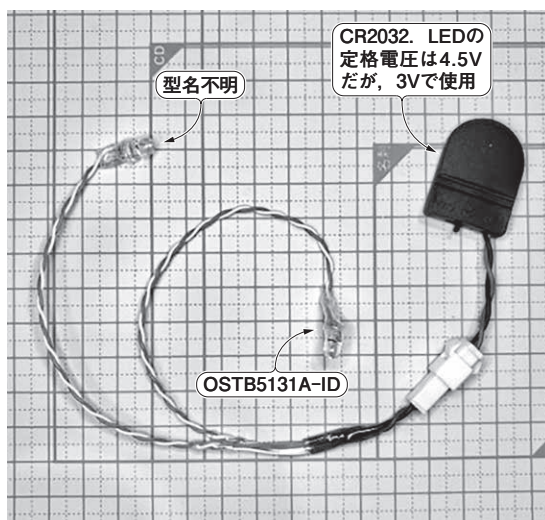


写真2 イルミネーション・カラーLEDで作る目印ランプ
電源をつなぐだけで発光色が約30秒周期でゆっくり変化するLED。2000年頃からアナログ式のもの（秋月電子で販売（型名不明））されていて、2008年頃にPWM式の製品が発売された